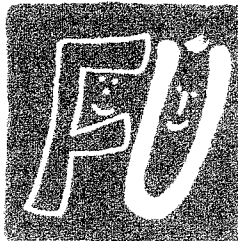


社会福祉法人ふたかみ福祉会

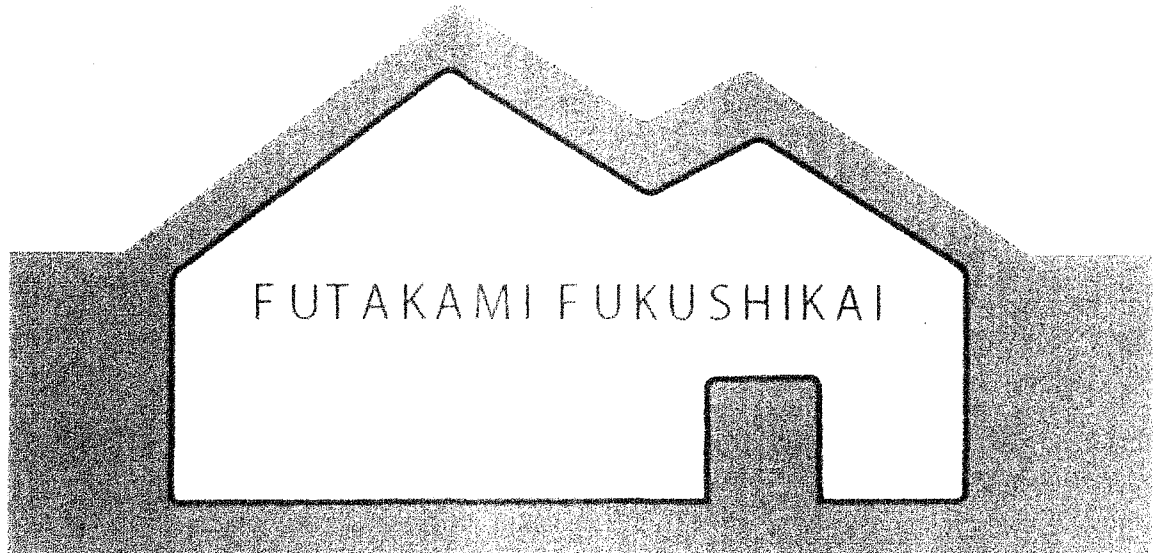
—かがやく命を大切にする社会をつくります—

2018 年度事業報告案

2019 年 5 月 25 日



法人事務局	1
はびきの園	2
ハピバール	4
もまれっこ	5
はばたき	7
ほまれの里	9
支援センターはる	10
第3者委員会報告	11



2018年度事業報告(案)

はじめに

1 経営・管理事業報告(開催日)

	理事会	評議員会	役員会議	管理者会議	管理者主任会議	法人職員会議
4月			4	10・17	23	7
5月	29		1	15・29	22	
6月		26	5	12・18	26	2
7月	5		3	3・17・31	10	
8月				7・20	28	
9月				4・11・18	25	
10月				2・9・15・30	23	20
11月	12			6・13・27	21	
12月				4・11・18	25	9
1月				8・15・22	29	
2月				5・12・19	8・26	
3月	23			5・12・26	20	9

上記会議 理事長・常務理事出席

○各事業所での主な会議

主任会議

実践責任者会議

職員会議

○評議員選任及び解任委員会

法人事務局会議

班会議

2019/4/19

2 危機管理委員会 17第4四半期 第1四半期 第2四半期 第3四半期 第4四半期

第3者委員会	4/23	7/13	10/12	1/18	6/14(予定)
--------	------	------	-------	------	----------

3 研修

内部研修 研修委員会を中心に

法人間連携研修(府社協アウトリーチ助|ピヨピヨ福祉会(松原市)と

経営指針づくりと人材育成	9/11	9/18	10/2	1/29
実践交流研修	1/19			

4 人事

正規職員		正規外職員		無期転換	
採用	退職	採用	退職	転換	退職
6	7	0	3	0	0
		育休			
		1			

5 事務局

正規	正規外	非常勤
1	1	3
	育休	

1) 主な業務

法人運営

理事会、評議員会、管理者会議(月1回)と管理者主任会議の出席に出席。議事録の記録と作成、書類

人事業務

各種必要書類(特に雇用契約書)把握、管理
採用筆記試験の実施

給料業務

勤務シフト様式記入方法改定。

経理業務

勤怠管理システム導入に向けたIT導入補助金の申請

請求業務

報酬改定対応。各事業所経営分析を行い、増減状況報告

その他

一括請求。ソフトの入れ替えを行った。

事務局員向け内部研修・危機管理、外部連携、その他

※吉川(吉川徹)社労士事務所委託

2018(平成30)年度事業報告案

2019年3月31日現在

事業所名	指定事業名	定員	現員	事業有効期間
はびきの園	生活介護Ⅰ	30	34	h25/4/1-h31/3/31
	生活介護Ⅱ	7	8	h25/4/1-h31/3/31
	就労継続支援B型	10	10	h25/4/1-h31/3/31
	就労移行	6	1	h25/4/1-h31/3/31

職員配置数

事業内容	配置基準	比管	主任	支援員 (加算)	支援員	保育士	看護師	調理員	運転手	計
生活介護Ⅰ	14.8	1	1		15.1			3	4	24.1
生活介護Ⅱ	3.6	1	1		3.7		1			6.7
就労継続支援B型	1.7	1	1		2.3					4.3
就労移行	1.1	1	1		3					5

利用者数(年齢)

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	65歳以上	計
男	1	9	10	10	1	2	1	34
女		2	7	6	2	1	1	19

利用者(支援区分)

事業内容	非該当	1	2	3	4	5	6	計	平均
生活介護Ⅰ				2	8	10	13	33	4.9
生活介護Ⅱ							8	8	6
就労継続支援B	3		2	2	1	2		10	2.4
就労移行	1							1	

利用率 当月延べ利用者数/(当月-8日)*定員 (%)

事業所名	はびきの園	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	利用率
生活介護Ⅰ		90%	88%	84%	80%	81%	82%	84%	88%	82%	79%	76%	75%	82%
生活介護Ⅱ		108%	105%	104%	86%	95%	87%	81%	89%	82%	76%	82%	68%	89%
就労継続支援B型		78%	79%	81%	72%	69%	78%	88%	93%	96%	91%	84%	82%	83%
就労移行支援		48%	46%	46%	42%	41%	35%	32%	34%	30%	28%	22%	14%	35%
開所日数		22	23	23	23	23	21	23	21	21	20	21	22	21.9

利用者工賃(就労継続支援B型)(円)

最高額/月	30,140	最低額/月	300	平均工賃/月	13126.9
-------	--------	-------	-----	--------	---------

【事業所の特徴】

利用者は新たに生活介護で5名、就労継続支援B型で2名確保できましたが、就労移行は2名の利用にとどまり定員を埋める事はできませんでした。また、年度当初に受け入れた生活介護の利用者が2月に4名退所しました。

就労移行は来年度から高い報酬に変更できています。引き続き利用者確保を進めていきます。

年度末に複数の職員の退職があった事で常勤換算の配置が厳しくなったので生活介護1の定員を改めて37⇒30にする手続きをしています。

【事業所運営に関わって】

- ・支援の専門性を高める為に内外の研修に積極的に参加してきました。内では法人研修に参加しています。
- ・職員間の連携を強め、実践の方向性を確認するために職員会議は毎月行いました。主任会議は前半は不定期になりましたが、後半は定期開催が来ています。
- ・区分に合った契約の変更を1名行いましたが、その後は提案できていません。
- ・事故報告等の書類は朝礼で迅速に共有していますが、第三者委員会でも確認してもらっています。
- ・優先調達法を受け、作業所連絡会を通じて市から仕事を委託されています。
- ・校区福祉委員会に出席し、そこから地域の夏の行事に声がかかるようになり、職員が述べ5名参加しました。
- ・河川占有の減免について、社会福祉法人の意義を訴え富田林土木事務所管轄の社会福祉法人がす

【利用者支援に関して】

- ・半期ごとに利用者の支援計画とモニタリングの確認を行っています。法人内のホームを利用されている方はホームと共同でおこなっています。今後法人では新しいホームの建設の計画があり、それについても本人や家族の意見を聞いています。
- ・集団を大切にす実践と、班集団を超えての支援ができるように目指してきました。職員が班集団の枠にとらわれがちなので、今後も課題は残っています。
- ・利用者工賃は新しい規程に基づいて支給してきました。大きな混乱はありませんでしたが、B型の支給額の平均が上がっています。
- ・体力の低下してきている利用者が増えてきて、労働以外の取り組みも必要になってきています。来期にはそういった利用者が集まる場を計画しています。
- ・授産でベンガラ染めはハンカチやワークショップを実施できました。バザー商品のネット販売は商品の整理等が利用者の仕事にできました。しかし授産会計を大きく回復するまでの事業にはなっていません。
- ・休日開所は10回行い、昨年度と比較して時間を15:30までとしました。利用は増えています。
- ・給食を維持するための検討会を立ち上げましたが、後半に会議を持たず進んでいません。

2018(平成30)年度事業報告案

2019年3月31日現在

事業所名	指定事業名	定員	現員	事業有効期間
ハピパール	生活介護	10	12	2017/4/1～2023/3/31
	就労継続支援B型	10	1	2018/4/1～2024/3/31

職員配置数

事業内容	配置基準	比'管	主任	支援員 (加算)	支援員	保育士	看護師	調理員	運転手	計
生活介護		1			3		1	1	1	
就労継続支援B型		1			2				1	

利用者数(年齢)

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	65歳以上	計
男		1	2	3		2		8
女			5					5

利用者(支援区分)

事業内容	非該当	1	2	3	4	5	6	計	平均
生活介護 I				1	3	5	3		4.8
就労継続支援B				1					3

利用率 当月延べ利用者数/(当月-8日)*定員 (%)

事業所名	ハピパール	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	利用率
生活介護		106	106	106	106	94	93	109	106	110	112	96	109	104
就労継続支援B型									5.0	2.9	1.5	1.4	0.4	2.2
開所日数		22	23	22	22	23	22	23	22	21	20	21	23	

利用者工賃(就労継続紫煙B型)(円)

最高額/月	最低額/月	平均工賃/月

【事業所の特徴】

今年度から就労継続支援B型を新規に始めました。支援学校在校生などの希望者の声が聞かれました。はびきの園と合同で関係機関向けや保護者向けの事業所説明会を行いました。高校3年生の卒業後の方はおらず、1年、2年生で希望される方が多く、1年後の進路先と希望されている方がおられます。

11月に1名B型で契約、4月に1名契約予定です。

B型の利用者獲得にむけての動きをとることができず、来年度は計画的に関係先へ出向く、支援学校等への結びつきなどが課題です。

【事業所運営に関わって】

地域とのつながりとして

- ・ ネットワークみやびに参加しており、区長さんや民生委員などに会議で近況を報告しています。11月には見学に来ていただき食事をされました。河内長野の社協の方々も見学に来られました。
- ・ 団体予約も増えてきました。他の事業所の仲間が食事に来てくださることもあり、仲間たちとの交流にもなっています。
- ・ まちまるしえやふれあいひろばなど定期的に行われているイベントにも毎回参加させていただき、楽しみにしてくれているお客様もいます。今後は仲間も販売に参加できるようにしていきたいです。
- ・ ダウン症のお母さんたちが企画した、パディーウォークin関西のTシャツに仲間の絵が採用されたことで、当日も参加しました。みんなでオリジナルTシャツを着てハピパールのブースも出して楽しい一日を過ごしました。
- ・ きょうされんの全国大会やヒューマンウェーブ、がんばるデーなどに参加し、障害のある人たちの権利や制度を守る運動を当事者として行っています。
- ・ ボランティアの方に来ていただいています。仲間と一緒に作業や取り組みを行っていただき、仲間も来られるのを楽しみにしています。

- ・事故報告、ヒヤリハットは日常の中で意識的に考えるようにすることで記入するようになり、職員間で共有できるようになりました。
- ・まだ仲間も職員も少ないこともあり、とすれば親しみをこめて馴れ合いになってしまうことがあるので、仲間の人権を尊重する支援のあり方を職員で話し合っています。
- ・障害のある仲間の働く事業所、カフェを運営している事業所という側面があるので、障害者団体とのつながりもショップやイベントなどを経営している方々とのつながりも大切にしています。

4月8日(日) まちまるしえ
 5月5日(土) 古墳まつり
 5月26日(土) 1周年サンクスデー
 5月27日(日) ふれあいひろば
 7月22日(日) ポンボンマルシェ
 7月29日(日) 夜カフェ(西浦校区夏まつり)
 8月22日(水) パティシエママのワークショップ
 8月25日(土) くるみ共同保育園夏まつり
 9月1日(土)・2日(日) まちまるしえat東急ハンズ
 10月3日(水)～5日(金) ソニー生命販売
 8日(月・祝) ポンボンマルシェ
 28日(日) バディーウオーク
 11月3日(土・祝) 西浦東校区地域フェス
 11日(日) まちまるしえ
 25日(日) ハピバールフリーマーケット
 12月2日(日) ふれあいひろば
 15日(土) たけだバンド
 23日(日) クラフトパーティー
 1月6日(日) もちつき大会
 3月17日(日) ふれあいひろば

【利用者支援に関して】

<カフェ>

- ・新メニュー

キッズプレート・ほうじ茶ラテ・和風ラテ・アップルジンジャー

- ・今後オーガニック(有機栽培)のものを増やそうと考えている反面、ハピバールに来るお客さまはコストが高くても身体にいいものを求めているのか、できるだけ安く飲食できることを求めているのかを検討しています。

- ・はびきの園の委託販売は主に製菓の商品がおいしいと手土産に購入される方が見受けられます。
- ・ギフトボックスで販売するようになり、仲間が箱に絵を描き、詰め合わせや出産祝いなどで使っていたくことも増えてきました。

- ・仲間の作業としては、なかなか確立していませんが、紙コップに「HAPIBAR」と書くことや箸袋にスタンプを押すなどで、お客さんに使ってもらうからきれいに仕上げようという意識ができています。

- ・お客さんが来るからきれいにしないと。」と掃除をしたり、「また来てください。」とあいさつをして、食器を下げたりということが自然とできるようになってきました。

- ・循環バスで通っている仲間は、車内で一緒になる方に「ハピバールに食べに来て。」と宣伝して、本当に来てくださり喜ぶ姿も見られました。

<ワークス>

- ・皮むき作業は計画性を持って行えたことで、はびきの園といつでもどれくらい納品するかなど連携を図りながら進めることができました。

- ・アトリ作業は自分の作業を確立して居場所を作って作業を行っています。

- ・絵画として商品になりきれっていない仲間の絵の一部は、カフェの販売時に使う紙袋として利用しています。仲間一人一人の作品をどう活かせばいいか試行錯誤を繰り返しています。

- ・きょうされんデザイングッズコンクールに応募し、1名が入賞、1名が入選しました。作業の励みになっています。

- ・陶芸作業は土の種類を増やし、これまでと違った風合いが出ています。注文も多く、計画的に生産するように心がけています。

2018(平成30)年度事業報告案

2019年3月31日現在

事業所名	指定事業名	定員	契約者数	事業有効期間
ほまれっこ	放課後等デイサービス	10	20	2018.5.1～2024.4.30

職員配置数

事業内容	配置基準	児発管	主任	支援員 (加算)	支援員	保育士	看護師	調理員	運転手	計
放課後等デイサービス		1	1	3	5	1			2	13

契約者数(年齢)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	計
男			1	1	1	1	3	3	1	2	2	1	16
女							2				2		4

利用率 当月延べ利用者数/(当月-8日)*定員

(%)

事業所名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	利用率
ほまれっこ	79	79	82	72	80	81	83	76	72	72	73	75	77
開所日数(提供日)	23	23	26	24	22	22	24	24	22	21	23	23	23.1

事業所の特徴

報酬改定にともない報酬が引き下げられたため、大阪府に異議申し立てを行ないました。各自治体が了解すれば変更も可能との回答があったので、自治体に対して申請を行いました申請時期が遅れていたことがネックになり見直しは出来ませんでした。

利用日数の増加について家族会や個別に訴えています。現状の利用回数や状況の大きな変化はなく収入的に厳しい状態が続いています。

現在のほまれっこは低学年(1年、2年)の利用はなく3年、4年、5年、6年が各一人利用しているだけで中、高校が半数を占めています。新たに利用を始めても継続した利用につながらなかったり、利用回数が月2～3と少なかったりと利用率の向上には至っていません。更に毎年進級した子どもたちは高校3年生で卒業し新たな進路に巣立って行くことは絶対原則です。今後は低学年の子どもの利用を増やす事と利用日数を増やす事が課題です。

3月末に賃貸から引越し、4からはびきの園の一室をほまれっこの活動スペースとして利用します。

【事業所運営に関わって】

家庭、学校、放課後の場が切り取られて支援するのではなく、一体となるよう家庭や学校、他の放課後等デイサービス事業所や相談支援事業所等関係機関と積極的に連携を図ります。次々に開始される事業所との競合で利用者に選ばれるほまれっことなるように存在を広くアピールしていきたいと考えています。

外部との連携としては大阪障害児放課後ネットワークに参加しています。国や府の情勢や他事業所との情報交換などを行っています。

羽曳野市内では、はびネットの一部の事業所が集まり情報交換をしています。今年度は合同行事としてクリスマス会を開催しました。実行委員会と立ち上げ話し合い、総勢100名ほどの人数で楽しむことができました。

* 定例会議 スタッフ会議(月1回)、ミーティング(週1回)、拡大スタッフ会議(月1回)

* 機関紙「あつまれ！ほまれっこ」月1回発行

* 家族懇談会(2ヶ月に1回)は他の事業所は行っていないとのことで、ほまれっこでの生活の中身やお互いの悩みを共有したりしています。

【利用者支援に関して】

○活動場所

ハルカス美術館、花の文化園 SAYAKAホール、すばるホール、ビックバン、マクドナルド、びっくりドンキー、大阪芸大、石川河川公園 美原歴史資料館 石川プラザ リックはびきの 峰塚公園 富田林河川敷 森の郵便局 羽曳野市役所 しゅらホール 向野青少年センター 箱作海水浴場 ふたかみパーク 道の駅 狭山池博物館 万葉の森 ハピバール 農林センター ……………

・月1回～2回誕生会を行ない集団の中で認められる時間になっています。

・音楽遊び、創作活動、駄菓子屋ほまれっこなど室内で遊ぶ取り組みも大切にしています。音楽遊びや創作活動を通じて内面の思いや気持ちを開放する機会になっています。駄菓子屋の取り組みでは子ども同士のかかわりも広がっています。

・3月23日(土) 岬公園へ日帰りバスツアーに行きました。年に2回の遠足は日頃は経験できない遠出ができ一日しっかり遊べる取り組みとなっています。

・びっくり返しゲーム、大根抜きゲーム等新たなゲームにも取り組み、マンネリ化しないように心がけています。

・サシェ作り、ウッドビーズでのキーホルダー作り、アルマキャンドル作りなどの取り組みは家族からも興味をも持って受け入れられ反応も良かったです。

・ハロウィン、けしき町立学校からハピバールまで子どもたちも衣装、パレードに参加しました。

2019(平成)年度事業報告案

2019年3月31日現在

事業所名	指定事業名	定員	現員	事業有効期間
はばたき	共同生活援助	23	22	h26/4/1-h30/9/30

職員配置数

事業内容	配置基準	比管	主任	支援員 (加算)	支援員	保育士	看護師	調理員	運転手	計
共同生活援助			1		3					4

利用者数(年齢)

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	65歳以上	計
男			8	8				16
女			3	2		1		6

事業内容	非該当	1	2	3	4	5	6	計	平均 区分	平均 年齢	定員	建物
はばたき	1		1			1		3			4	府営住宅
第2はばたき						4	3	7			7	法人所有
第3はばたき					2	2	2	6			6	法人所有
あさがお					2	1	3	6			6	法人所有
計	1	1	1		4	6	10	22			23	

【事業所運営に関わって】

2018年度初めに、はばたき入居者1名が亡くなりました。
 大事な一人の命をなくすことになってしまったこと、ホーム内で死に直面したことなど、職員が生と死を受け止めることから始まった2018年度となりました。

今年度は主にアセスメントシートの見直しを実践してきました。緊急シートも作成し、何かあった際に対応がスムーズにできるような準備をおこないました。

また、家族の要望や、「常識」だけにとらわれず、「本人の気持ち」は何なのか「楽しい人生」をと考えながら、管理やリスクマネジメントだけに追われない、本人がおこなって「失敗できる機会」を設ける大切さを職員一同で考えることができるように、会議や引継ぎなどでもてるように心がけてきました。

家族も高齢化していき、病気をしている方もいる中、現状的には週末に帰宅をしている方がまだまだ多いですが、毎日日勤職員を置く勤務体制を今年度からおこなっており、上半期は自然災害が多く、ガイドヘルパーが休止になった際に、急きよの支援体制が取れたことなど幸いしました。

また、家族の入院で急きよ週末に自宅帰宅ができなくなり、休日の日中もホームで過ごしたときなどの対応も迅速にできました。

365日の暮らしを安心して支えることの、支援者側の課題は山積みですが、決まった答えがない「暮らし」の支援を模索をしながら、仲間がよりよい暮らしを送ることができるよう、共に歩んでいきたいと思っております。

【利用者支援に関して】

通院等の支援

風邪などの発熱などで急な通院支援も数多く増えました。定期通院に関しても、家族の負担軽減の観点からホームで支援を担っていく努力もしています。また通院にはいかなくとも、ホームでの日中支援も対応してきました。

また家族の病気や環境の部分で、ホーム職員が通院を担うことも今まで以上に少しですが増えてきました。

障害のある人と医療は切り離すことができない課題です。

家族の要望により、訪問歯科受診をホームで希望者のみおこないだしました。

加齢に伴い、褥瘡などの対応も今まで以上に必要になります。ホームでの支援はもちろん、日中事業所とも連携しながら、健康を守っていききたいと思います。

ひやりはっと・事故報告

服薬ミスが前期は減ってきていました。再三の注意促しなどによって、チェックする時間、職員間の「コミュニケーション」の強化などが理由だと思われます。

けれども、後期に各ホームで別ではありますが、立て続けに服薬ミスが相次ぎました。服薬チェックする時間は設けてはいるものの、職員の「感覚」だけでの支援が服薬ミスを導いたと思われます。「イレギュラー」な服薬、仲間の状態も頻繁に変わり、薬が出たりなくなったりする事例も多く、職員が全員分把握することは複雑でとても大変ではありますが、状態の変化に丁寧に対応する力が求められ、ミスが続けば違う薬の管理方法を考えました。

災害について

今年度前半は、大阪北部地震や台風が数多く発生し、災害時についての対応をたくさん求められました。仲間の安全をどう守るか、今日はどこにいるのが安全か、職員をどう確保するのかということが今後も問われてきます。

情報を的確に入手し、的確な判断を今後もしていきます。

防災の備えなども、各居室に備える懐中電灯などは家族にも依頼し常備するようになりました。

201(平成)年度事業報告案

201年3月31日現在

事業所名	指定事業名	定員	現員	事業有効期間
ほまれの里	短期入所	5	45	h26/10/1-h32/9/30

職員配置数

事業内容	配置基準	比管	主任	支援員 (加算)	支援員	保育士	看護師	調理員	運転手	計
短期入所	5:01									

登録者数(年齢)

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	65歳以上	計
男	5	11	8	2	1			27
女	2	2	8	3	1			16

登録者数(支援区分)

事業内容	1	2	3	4	5	6	計	平均
短期入所	1	5	11	7	5	12	45	4.2

※児童区分は1～3まで

事業所の特徴

利用率 当月延べ利用者数/(当該月日数)*定員 (%)

事業所名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	利用率
ほまれの里	106	106	100	101	90	94	107	104	89	79	85	98	
開所日数(提供日)	27	28	29	28	26	26	30	26	24	21	26	29	

【事業所運営に関わって】

①緊急時の受け入れに努めます。

・下半期は家族の体調不良によって自宅で過ごすことができない方の緊急利用の受け入れを2回行いました。

・相談支援事業所より数件利用についての相談があり、そのまま契約に結び付けました。多くは家庭状況に問題はなく、将来のグループホーム利用や居場所作り等の理由での利用となっています。下半期は学齢期(ほまれっこ利用者)の契約希望が3件あり、契約を行っています。近隣のショートステイ事業所が撤退したことにより2件契約希望がありました。今後さらに契約希望が増える可能性があります。

②個々の生活のスタイルに合わせて利用者が安心して過ごせる支援を目指します。

・最大5人という小さな集団で、それぞれ個室があることから利用者同士で喧嘩などのトラブルになるケースはほとんどありませんでした。ほまれの里での生活に慣れている利用者が多く、それぞれの過ごし方ができてきています。

・初利用者は初めての場所、人との関わりのため緊張される利用者がほとんどです。そのため自宅から本やゲームなど自宅で楽しんでいる物を持ってくるよう勧める、知っている利用者と同じ日に利用できるよう配慮を行いました。

・支援方法をどのように全体で共有していくのか課題は残りますが、実際に利用者の体調変化の気づきや、入浴支援の仕方など共有出来てきた部分もあります。

・日中事業所、家庭に送迎を協力してもらっていますが、送り迎えが困難なケースは送迎を行いました。利用しやすい環境を整えています。

③服薬支援について

・服薬分は日にちで小分けにするよう家族に協力してもらっています。

・薬確認表は継続して活用しており職員間でも共有できてきています。

・服薬支援では特に寝る前の服薬を見落としがちになるため夜間の見回り支援の際に必ずチェックするようにしています。複数の目で確認することを意識して取り組んでいます。

④清潔で健康的な衣食住を保障

・入浴支援おこなっています

仲の良い利用者同士で入浴をすることもあり交流の時間にもなっています。

・食事のメニューの種類も増えてきています。連泊者に同じものを提供しないようメニュー表を作成し活用をしています。

・栄養をとるだけでなく誰かと一緒に食べる楽しさを大切にしていますが、集団になじめない利用者には集団を分ける、部屋食をするなど利用者に合わせています。特定の利用者が職員の都合だけで部屋食にする、都合で後回しにすることがないように気をつけていきます。

⑤利用者の安全配慮

・夜間に利用者が他利用者のぜんそく薬を誤飲する事故がありましたが幸い体調に変化はありませんでした。対応として夜間救急相談センターに相談しました。夜間対応が可能な地域の医療機関の紹介を受け体調の変化に速やかに対応できるようにしました。

・火災連動システムの解除や消防とのやり取りをするために事務所の隠しキーの周知など課題は残ります。

・インフルエンザの流行に伴い、リビングの閉鎖、自室での部屋食等の対応を行いました。また、はびきの園閉鎖に伴い、はびきの園利用者の利用をキャンセルしています。

⑦職員の支援力のアップを行います。

・ほまれの里の職員会議を下半期より毎月開催しています。勤務回数が多い職員を中心に会議を行い、日々の業務や利用者の姿の共有と文献やワークなどもとり入れ、実践感を養う機会となりました。

・一緒に勤務する職員の関係ができておらず連携ミスなども見られました。声の掛け合いを大切にしよう注意喚起を行っています。

⑧必要な職員を安定して配置できるよう人材の確保をおこないます。

・経験のあるアルバイトが4月で複数退職することになり、人材の確保と新人アルバイトのフォローが課題になっています。特に女性スタッフが退職や学業の都合で入れなくなり女性利用者の調整が必要です。

2018(平成30)年度事業報告(案)

支援センターはる 2019/3/31 現在

1 相談支援事業

名称	住所	
支援センターはる	羽曳野市白鳥3丁目16番3号102	
指定事業名	事業有効期間	
委託(羽曳野市)		
指定特定相談支援	h30/4/1-h35/3/31	
地域移行支援	h25/1/1-h30/12/31	更新申請済
地域定着支援	h25/1/1-h30/12/31	更新申請済

-1 職員配置

管理者(兼相談支援専門員)	1	羽曳野市相談支援事業委託
相談支援専門員	4	
ケアマネジメント推進員(障害分野)	1	市相談支援機能強化推進事業
聴覚ピアカウンセラー・手話通訳者	2	内手話通訳者1名(毎月曜日1.3木曜日)
肢体・視覚ピアカウンセラー	2	随時、電話予約対応

羽曳野市地域自立支援推進会議事務局

-2 主たる業務

(1) 羽曳野市委託相談支援

1) 個別相談

平成30年度 相談者数 (1302) 名 (延べ)

障害	身体					重症 心身 障害	知的	精神	発達	高次 脳	難病 その他
	肢体	聴覚	視覚	内部	その他						
羽曳野市	655	235	230	5	28	122	4115	1100	155	61	482

(実施方法)

内容	件数	内容	件数
家庭/施設等訪問	956	FAX/メール	340
面接(センター来所)	193	ケース会議	96
同行	201	関係機関からの紹介	1
電話/	4220	その他	125
		合計	6132

2) ピアカウンセリング

3) ネットワークの形成

羽曳野市地域自立支援推進会議

○全体会(9/7・3/9) 運営会議(4/6 6/15 8/3 10/12 2/8)

9/7 全体会 研修「発達障害の支援とネットワークについて」

講師: 山根和史氏(大阪府発達障がい者支援センター アクト大阪副センター長)

3/9 発達障害支援ネットワーク検討の経過報告とまとめ

研修やグループワークから見えてきた地域課題について

○部会・懇談会

「地域移行・定着支援部会」(5/7 7/9 9/10 11/12 3/11)

「共同生活援助事業所懇談会」(6/6 1/21)

「日中・就労支援部会」(4/18 10/10 2/6)

重症心身障害者事業所懇談会(7/12 3/5)

児童発達支援・放課後等デイサービス「さん」見学

医療的ケアの必要なひとたちの支援・ネットワーク

「事業所連絡会」全体会(6/22 10/23 2/26) 運営会議(5/18 9/28 次回1月3月)

報酬改定を受けての具体的な対応について市より説明を受け、グループ
精神障害の理解について 事例から

講師 長谷川 拓也氏(大阪府藤井寺保健所 嘱託医 結のぞみ病院医師)

対応が困難と思うケースについて —パーソナル障害についての研修を受け

「相談支援部会」(7/13 3/18)

「放課後等デイサービス懇談会」 10月29日

その他のネットワーク

南河内支援センター連絡会(5/21 7/9 9/3)

羽曳野市中エリア地域福祉専門職ネットワーク会議

4) ケース会議の開催

5) 広報活動・情報収集活動 はるニュース4月1日号 10月1日号発行

6) 認定調査 108 件

(2) 指定特定相談支援事業(羽曳野市)

・サービス等利用計画作成 計画件数 183 モニタリング件数 266
167名 実人数

(3) 指定一般相談支援事業(大阪府指定)

・地域移行支援
・地域定着支援 2名 実人数

2 南河内北障害者就業・生活事業（羽曳野市・松原市・藤井寺市）

2008年度より国の事業に

名称	住所
南河内北障害者就業・生活支援センター	羽曳野市白鳥3丁目16番3号

職員配置

管理者	1	雇用安定等事業
主任就業支援担当者	1	
就業支援担当者	2	生活支援等事業・体制強化事業
生活支援担当職員	2	

1. 就業・生活支援活動の実績

(1) 就業相談

4月～3月 登録者数 459名

①（現状および障害別内訳）

就業状況	障害				合計
	身体	知的	精神	その他	
在職中	12	137	52	3	204
求職中	12	72	98	4	186
その他（訓練等必要な人）	3	48	18	0	69
合計	27	257	168	7	459

※障害のその他とは、障害者手帳を所持していない 459

②障害者に対する相談・支援件数

身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計
105	1424	899	19	2447

※相談・支援内容は、面接・電話・家庭訪問・ケア会議・職場実習支援・就労定
※行政指導により、カウント方法が変更。

○ 羽曳野市障害者雇用相談 羽曳野市の委託事業 相談件数：19件

○ 藤井寺市障害者雇用相談 藤井寺市の委託事業 相談件数：8件

(2) 職業準備訓練から就職・職場定着にいたるまでの支援

①訓練のあっせん

○基礎訓練13名（併設施設および提携施設）

○職場実習22名（知的11名、精神 10名、その他1名）

②職業評価

5名（大阪障害者職業センター南大阪支所に実施依頼）

③就職支援

ハローワークと連携

トライアル雇用（3か月の試行雇用）を4件実施。

就職者数34名（身体2名、知的19名、精神12名、その他1名）

主な就職先、物流、食品製造、製造業、清掃など

(3) 就職者に対する支援

①定着支援 定着支援件数921件
（うち、職場訪問による支援370件）

②余暇支援活動（はるくらぶ）

(4) 事業所への支援

事業所支援 842件 事業所 111事業所

2. ネットワークの形成

○定例参加会議（主なもの）

大阪障害者就業・生活支援センター連絡会
羽曳野市地域自立推進会議
松原市地域自立支援協議会
藤井寺市障害者地域自立支援協議会
南河内支援学校進路指導会議

○第16回 南河内北 障害者就業・生活支援センター運営会議の開催
2018年5月15日（火）14：00～16：00

○障害者の就労を支援する機関との連絡会（ジョブネットトライアングル）

3. 生活面での支援について

○ケース会議の開催

○当事者交流会

4. 障害者雇用に関わる啓発活動

○障害者雇用フォーラムの開催 2018年10月24日（水）13：30～

5. その他

○障がい者就労支援フェスタへの協力 2018年7月14日（土）13：00～16：00